

## ～旧約聖書を読んで感じること～ (33) 指導者カレブの娘・指導者オトニエルの妻アクサ

「強く雄々しくあれ。あなたがどこへ行ってもあなたの神、主は共にいる」と絶えずヨシュアを励ます神、また、共に戦う神の使いと共に、ヨシュアはエリコを手始めにカナンを征服していきました。ヨシュアは様々な作戦を立てて成功していきました。カナンの住民の中にはイスラエルの力に怯え、賢く立ち回り、ヨシュアと和を講じ、命を保障してもらう同盟を結ぶものもありました。イスラエルの民はカナンの地を嗣業の地として、それぞれの部族ごとに分割し、カナンの民の中に定住し始めました。



カレブと娘アクサとオトニエル Henry Singleton (1766-1839)

ヨシュアと共に若い時からモーセに仕えたユダ族のカレブは老年になっても勇敢でした。「あなたが足を踏み入れた土地は永久にあなたと、あなたの子孫の嗣業の土地にする」とモーセが約束してくれたように、この地・ヘブロンを所有したいとヨシュアに願いました。ヨシュアはそれを認めました。カレブはヘブロン地方を狙って住民を追い出し、攻めたと記されています。カレブは「その土地の一部を占領した者に、娘アクサを妻として与える」と褒賞も約束しました。すると甥のオトニエルがそれに応え、占領し、平定が叶いました。そのため、アクサはオトニエルの妻となりました。

褒賞にするというくらいですから、娘アクサは美しく、魅力があったことでしょう。その上、父は長年指導者として民の尊敬を集め、模範であったのです。カレブの娘を妻にすれば、有力者と縁戚関係になれるということです。アクサは魅力的なお嬢さんただけではありません。

彼女は来て、父から畑をもらうようにオトニエルに勧めた。彼女がろばの背から降りると、カレブは、「どうしたのか」と言った。彼女は言った。「お祝いをください。わたしにネゲブの地をくださるなら、溜池も添えてください。」彼は上と下の溜池を娘に与えた。(ヨシュア 15:18-19)

アクサは嫁入りする娘への財産分けとして、畑を貰いたいと、夫のオトニエルと相談していました。そこがネゲブの地でした。ネゲブは荒野です。彼女はさらに、父にお祝いとして、溜池、すなわち荒野に絶対に必要な水をも求めました。そして、新生活をスタートしようと思ったのです。父はそれを叶えました。しかも、願った以上に、上と下の二つの溜池をアクサは貰うことができたのです。

アクサは、経済観念がある、しっかり者でした。これからの生活設計を思い描いていました。アクサは働き者だったのです。畑を耕す夢を持っていたのです。ろばも乗りこなすほどです。先の見通しをもって、計画を練って、積極的に生活するたくましい女性です。「求めなさい。そうすれば、与えられる。」(マタイ 7:7)というイエス様の言葉どおりに、必要なものを熱心に願って、与えられました。

イスラエルの人々が主に助けを求めて叫んだので、主はイスラエルの人々のために一人の救助者を立て、彼らを救われた。これがカレブの弟ケナズの子オトニエルである。主の霊が彼の上に臨み、彼は士師としてイスラエルを裁いた。(士師記 3:9-10)

アクサの夫オトニエルはやがて民の指導者・最初のイスラエルの士師として素晴らしい働きをする人となりました。内助の功という言葉がありますが、アクサは堅実な妻として、オトニエルを支え、父と同じように、夫も、民のために良い働きができるように願ったのではないのでしょうか。